

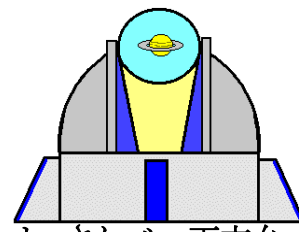


Shosanbetsu Astronomical Observatory

天文台だより

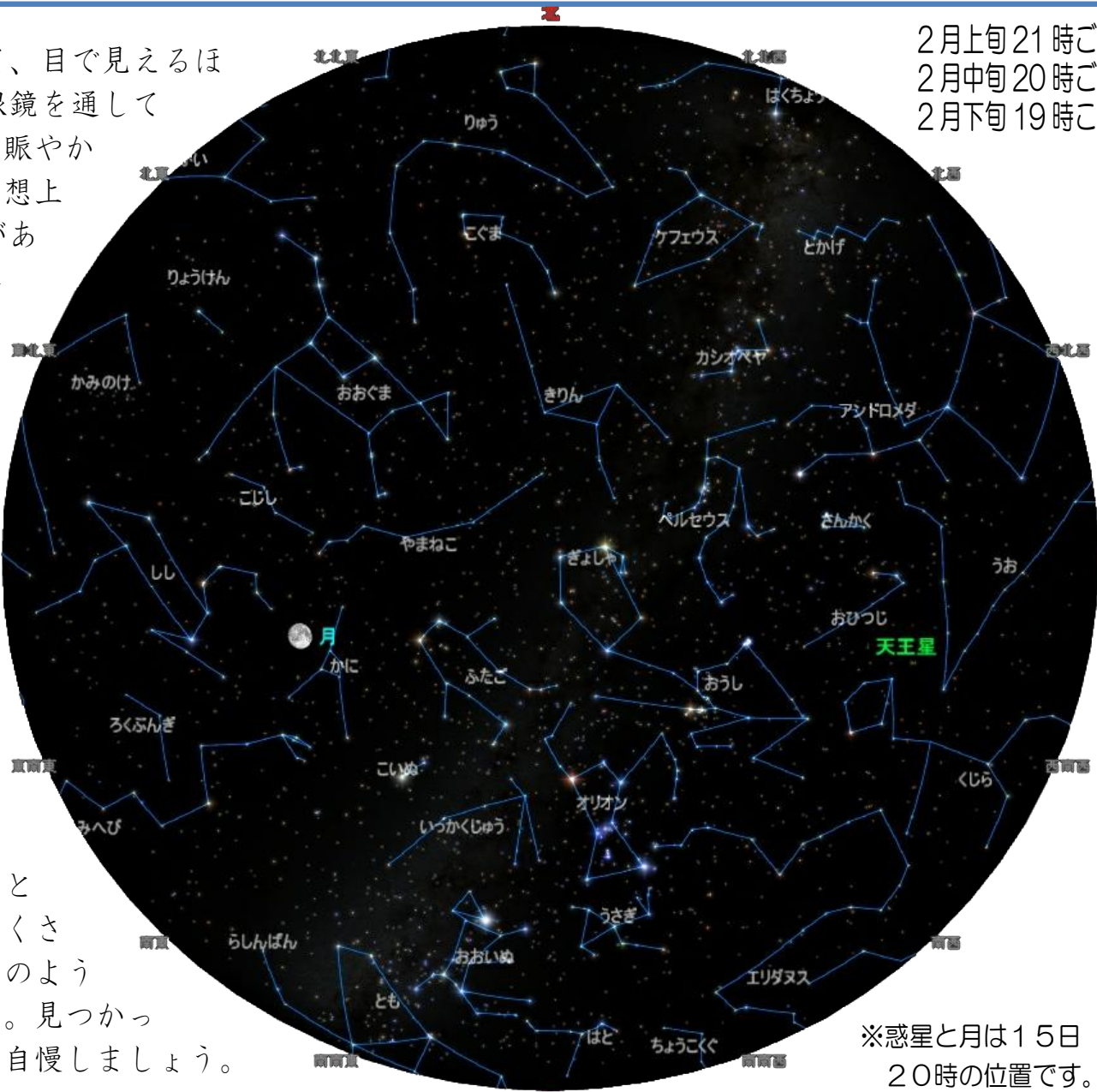
～2月の星空～

令和4年1月26日



しょさんべつ天文台

冬の天の川は、夏のそれとは違って、目で見えるほどの濃さではありませんが、双眼鏡を通して見ると星がたくさん見えて、それなりに賑やかなのがわかります。その流れの中に、空想上の動物“ユニコーン（一角獣）”の星座があります。伝説の“一角獣”は、額に1本の角を持つ馬の姿をしていて、めったやたらとつけられるようなシロモノではなく、その姿を見ることができるのは“清純で心優しい乙女”だけと言われる、なんともハードルの高いお方。対して、星座の「いっかくじゅう」は、場所こそオリオン・おおいぬ・こいぬの3星座の主星で形作られる「冬の大きな三角」の中でわかりやすいですが、いくつかの4等星をつないただけで目立たないので、そういう意味でハードルはお高め。秋の夜空の“羽の生えた馬”とは見つけやすさが真逆ですが、がんばれば、たどることができるでしょう。天頂近くの見つけにくさMAXの「やまねこ座」ともども“山猫のような鋭い目”で、見つけてあげてください。見つかったあかつきには、その目から、大いに自慢しましょう。



2月上旬 21時ごろ
2月中旬 20時ごろ
2月下旬 19時ごろ

※惑星と月は15日
20時の位置です。

2月の太陽・月と主な惑星の出没

		1日	11日	21日	28日
太陽	出	06:51	06:38	06:23	06:12
	没	16:43	16:57	17:10	17:20
月	出	07:14	11:35	22:12	05:07
	没	16:24	02:50	08:35	13:59
金星	出	04:37	04:11	03:56	03:50
	没	14:32	14:03	13:46	13:40
火星	出	04:50	04:40	04:29	04:20
	没	13:34	13:29	13:25	13:24
木星	出	08:00	07:26	06:52	06:28
	没	18:50	18:23	17:56	17:37
土星	出	07:06	06:30	05:54	05:29
	没	16:55	16:22	15:49	15:25

〈主な惑星〉

水星…夜明け前の南東の低空です。17日に西方最大離角となりますが、高度はあまり高くなりません。
金星…夜明け前の南東の空です。13日に-4.9等の最大光度となります。近くには火星がいます。
火星…夜明け前の南東の空です。双眼鏡があると見つけやすいでしょう。金星が近くにいます。
木星…日没後の南西の空です。中旬くらいで見納めです。
土星…5日に合となるので、観望はしばらくお休みです。



おおいぬ座の散開星団M41。肉眼でも存在がわかるほどで、双眼鏡なら1等星シリウスと同じ視野の中でとてもきれいに見えるよ。



日 天文現象

- 1 ●新月
- 月と土星が接近
- 3 月と木星が接近
- 4 立春(太陽黄経 315°)
- 5 土星が合
- 6 うお座μ星(4.8等)が月に隠される
- 8 △上弦
- 月と天王星が接近(南極で天王星食)
- 13 金星が最大光度(夜明け前の東空、-4.9等)
- 17 ○満月
- 水星が西方最大離角(夜明け前の東空、+0.1等)
- 19 雨水(太陽黄経 330°)
- 24 ▼下弦
- 27 月と火星が接近

● 美の女神と連れの者の集い…

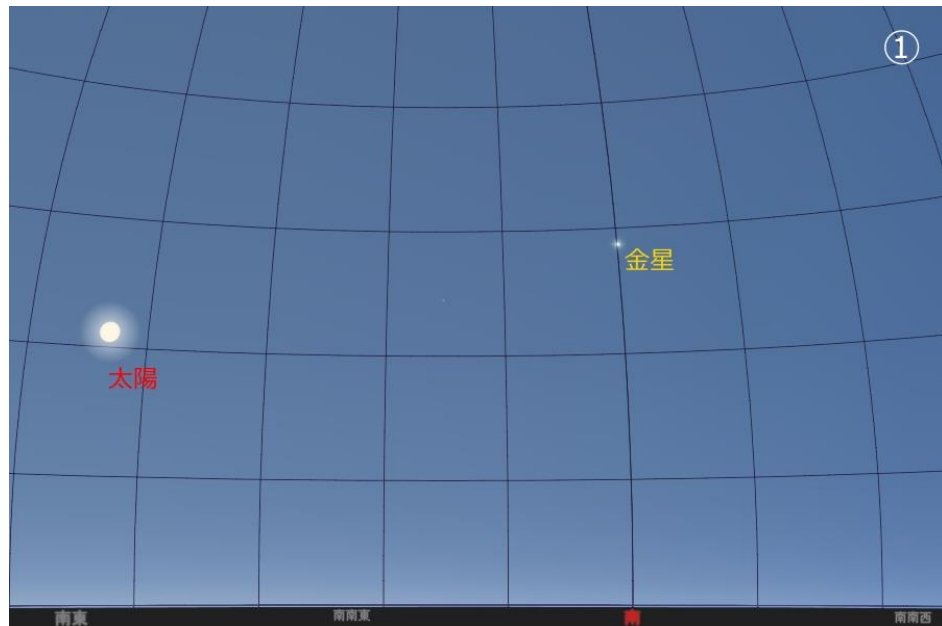
昨年長い間、“宵の明星”として夕方の空で輝きを誇っていた金星は、1月9日に太陽と地球の間に入って内合となり、以後、夜明け前の東の空で“明けの明星”として見えるようになりました。2月13日には-4.9等の最大光度となり、昼間の青空の中でも見つけられるほどの明るさで、望遠鏡を使って見ると、三日月のような形に見えます(望遠鏡の像は上下左右が反転しますので、実際には三日月を上下左右反対にしたような向きになっています)。日が昇ってから双眼鏡や望遠鏡で観望する場合は、太陽を視野に入れないように十分気をつけてください。

夜明け前の南東の空では、金星の近くに火星が見えますが、こちらは金星の輝きに圧倒されてかわいそうなくらいの暗さ(それでも1等星ほどの明るさですが…)なので、双眼鏡があった方が見つけやすいでしょう。

また、2月17日には水星が西方最大離角となって、金星や火星同様、夜明け前の東南東の空に見えています。火星よりも明るいですが、金星や火星に比べると高度が低いので、こちらも双眼鏡を使った方が見つけやすいでしょう。

火星と水星を探すときは、金星を目印にするとよいでしょう。火星は金星の右斜め下の方、水星は金星の左斜め下で地平線の少し上の方を探すと、見つかるはずです。

晴れた日の明け方は冷え込みます。十分に着込んで暖かくして、南東の方向が開けた場所で観望してみてください。



① 2月13日午前9時ごろの金星の位置。ちょうど南中したところで、方角はほぼ真南、高さは地上から30°(握りこぶし3つ分)くらい。太陽からは右(西)方向に40°ほど離れている。

② ①と同時刻ごろの金星を望遠鏡で見たときの状態。

③ 2月17日午前5時40分ごろの南東方向の空。地上から10°くらいのところに金星と火星、地平線付近に水星が見える。

☆☆☆ 天文台のご利用案内(2月) ☆☆☆

天文台は12月1日から2月末日まで、冬季休館です。休館中の業務は自然交流センター(教育委員会)で行います。お問い合わせなどは教育委員会までお願いいたします。

- TEL/FAX(教委) : 0164-67-2136 / 0164-67-2832
- E-mail(天文台) : tenmon@aurens.or.jp
- E-mail(教委) : kyoui.syakyou@vill.shosanbetsu.lg.jp
- URL = <http://www.vill.shosanbetsu.lg.jp/shtenmon/>

“My Stars system” 村民登録 受け付け中

登録料は無料です。
未登録の方でご希望がありましたらお問い合わせください。

天文台利用状況(12月末現在)

令和3年度利用者数	1,448名
利用者累計	277,495名
My Stars system 登録者数(一般)	10,171名

星見人「しよさまる」の

天文クイズ



宵の明星、明けの明星で知られる金星が最も明るくなるのは、次のどの時期でしょう？(答えは次号で)

- ア 内合のころ イ 外合のころ
ウ 最大離角のころ エ 最大離角と内合の間

【前号の答え】イ(東京都)

【解説】初日の出は、海拔高度が同じなら南東方向に向かうほど早く見られます。初日の出の時刻が最も早い日本の最南東端は、東京都小笠原村の南鳥島で、午前5時27分ごろです。同じ場所なら海拔高度が高いほど早く見られます。海拔3,776mの富士山頂では午前6時42分ごろ。なお、北海道で最も早く見えるのは、納沙布岬の午前6時49分ごろです。

【あとがき。】先月号でいつか見たい鳥の名前を出しましたが、鳥以外で見たいのが、丸い地球です。もちろん、生の。当然、宇宙に出ないと見えませんが、寿命を迎える頃合いに、宇宙から地球の姿を眺めて“何もかもみな懐かしい”と思えたら…と考えるのは年をとった証拠？ それまでに、我々庶民でも宇宙に出られるくらいに敷居が下がっているといいんですが…。(な)